

利用者からの報告

アルミフレームを使った三畳の茶室空間の制作

立石 龍壽 (たていし りゅうじゅ)

所属：工学研究科 都市系専攻

専門分野：建築デザイン

趣味：バイク、カメラ



10月末に毎年、銀茶会という茶道の3流派（表千家、裏千家、武者小路）が合同で行うお茶会が銀座で行われ、そこで利用される茶室を募集するコンペが行われました。条件として3畳程度の空間、製作費20万円、安全性の確保、そして新奇性が求められ、それを1/1で制作し審査するというものでした。第一次審査のシート審査を通過した4組が1/1制作に着手するわけですが、私たちの提案は直径10mmのアルミ無垢材とステンレスの接合部により構成された茶室だったので工作センターでの加工を行いました。

まず工程として、接合部ソケットはステンレスパイプからの切り出し→旋盤加工→穴あけ→溶接、アルミフレームが切り出し→ソケットに合わせて穴あけ、となります。



図1 アルミフレーム材切り出し



図2 ステンレス穴あけ

実際に中に人が入り茶室として使われるので安全性が求められます。そこで実際の建築物に対して行われる構造解析をこの空間に対して行い、安全性を証明しました。数値解析、安全性の判定により10mmというかなり細かい材でありながら人が4人ほど入っても重大な変形が発生することのない空間を作り出しました。

空間のコンセプトとしては従来の茶室にはなかったアルミやアクリルといった材料を使いなが

らも有名茶室「如庵」のルールや空間構成は踏襲し、できた空間に人々が如庵の姿を想像し、その想像や実際に行われるお茶の動作によって茶室が完成されるというものです。

二次審査では東京都庁やフジテレビ、代々木体育館などで世界的に有名な建築家である丹下健三の息子であり現在丹下都市建築設計代表である丹下憲孝さんにより評価され銀賞受賞となり、銀座のお茶会で実際使用される運びとなりました。



図 3 実際の展示風景



図 4 お茶会の様子

私は本学建築学科から大学院に進みましたが今までこのような施設が学内にあることを知りませんでした。このような施設を利用できることを知っていれば卒業設計などをかなり効率的にできたと思います。装置の使い方など丁寧に教えていただき、制作に関しても多大なアドバイスを受けることができました。本当に感謝しています。今後、また利用する機会は必ずあると思うのでよろしく願いいたします。